



牛込改代町の潰家（『東京震災録』写真帖及附図）

今日の基準によると最大震度7に至った関東大震災では、震源に近かった神奈川県南部、房総半島南東部の家屋の倒壊が30%を超えていました。

東京市の中では本所区の家屋倒壊率が13%と最大で、浅草・深川・下谷・神田の各区でも多くの家屋が倒壊しました。一方、武蔵野台地上に位置した四谷・牛込・麴町・本郷・小石川の各区では1%に満たなかったといわれています。それでも場所によっては激しい震動にさらされ、上の画像のような被害も発生していました。

火災の発生がなかった地域では震災による人的被害こそ甚大にはなりませんでしたが、家屋倒壊、インフラの破壊による影響は広範な地域に及んでいたことがわかります。